

普及活動現地情報

「農業現場では、今」



【那賀振興局】 スマート農業実演会開催

令和4年7月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1-2
1. ピーマンのうどんこ病に対する薬剤試験	
2. もも出前授業を実施	
3. 本県の果樹生産、クビアカツヤカミキリに関する出前授業を実施	
II 那賀振興局	3-4
1. 長田小学校で「ももの出前授業」を実施	
2. スマート農業実演会開催	
III 伊都振興局	5-7
1. 高野山麓精進野菜出荷目揃え会及び栽培講習会の開催	
2. 隅田地域農産物利用推進協議会総会及び講習会の開催	
3. 食育活動として小学校へのももの出前授業を実施	
4. 令和4年度スマート農業実演会「伊都会場」を開催	
IV 有田振興局	8-10
1. 温州みかんの摘果授業を開催	
2. 宮原共選組合でみかんの栽培研修会を開催	
3. 「温州みかんの果実調査」スタート	
4. 令和4年度有田地方農業士協議会研修会開催	
V 日高振興局	11-12
1. 印南町農業士会が宝牧場で研修会を実施	
2. 第1回うめの県内有機農業実践者研修会を初めて開催	
VI 西牟婁振興局	13
1. 西牟婁地方農業士会女性部会が梅の消費PR活動を実施	
VII 東牟婁振興局	14-16
1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお苺”産地の体力強化】 ～みくまの産地協議会が第1回U I ターン就農相談フェアに出展～	
2. アブラナ科野菜の根こぶ病簡易生物検定研修を開催 ～管内7農家の検定も併せて実施～	
3. 地場産青果物対策協議会が先進地視察研修を実施	
VIII 農林大学校	17
1. 1年生の農業体験研修	
IX 就農支援センター	18
1. 令和4年度第1回U I ターン就農相談フェアを開催	

I 海草振興局

1. ピーマンのうどんこ病に対する薬剤試験

和歌山市の布引や毛見はピーマンの産地で、ハウス加温栽培では2月から7月下旬、ハウス無加温栽培では6月から10月上旬にかけて収穫され、京阪神市場へ出荷される。

2、3年前から、一部のハウスで、うどんこ病が多発していることから、農業水産振興課では、JAわかやまと連携して、うどんこ病の薬剤試験を行った。

試験は、3カ所のハウスで6月から7月にかけて実施。慣行薬剤と使用していない薬剤の計7剤をピーマンの苗に散布した後、うどんこ病が発生しているハウスに設置し、発病の有無と程度を調査した。

結果は、これまで使用していなかった薬剤で効果が高いことがわかった。結果を生産者の部会等で報告するとともに今後の防除指導に活かしたい。



供試薬剤の散布



薬剤処理した苗をハウス内に設置

2. もも出前授業を実施

県では、地産地消・食育の取組の一環として、県内小学校等に農水産物の提供を行っている。7月13日に和歌山市立雑賀小学校の4年生119名に対して、ももの出前授業を実施した。

今回の授業では、より関心を高めてもらうため、前日に提供したももを児童が持ち帰り、事前に観察（匂い、触り心地、味など）してもらった上で話を聞いてもらうように工夫した。

当日は、農業水産振興課の岩橋普及指導員から「もものお話」として、ももの収穫量、種類、歴史、1年間の農作業、クビアカツヤカミキリなどの害虫や病害などについてパワーポイントを用いて説明を行った。ノートにメモをとる児童が多く、熱心に話を聞いていた。また、「ももの毛はなぜあるのか?」「おいしいももの見分け方は?」「おいしいももの作り方は?」など授業時間が超過するほど多数質問があり、関心の

高さがうかがえた。

今後も本県の誇れる農水産物について学習の機会を提供し、記憶に残るような取組を実施していく。



もものお話



熱心に話を聞く児童

3. 本県の果樹生産、クビアカツヤカミキリに関する出前授業を実施

農業水産振興課では、和歌山市立小学校2校〔浜宮小学校（6月6日）、貴志小学校（7月1日）延べ134名〕で、本県の果樹生産やクビアカツヤカミキリに関する出前授業を行った。果樹の栽培が盛んな理由や、深刻な被害をもたらしているクビアカツヤカミキリについて岩橋普及指導員、向井技師が説明を行った。

児童からは、クビアカツヤカミキリについて「人に対して危険ではないのか」、「見つけたらどうしたらよいのか」など様々な質問が寄せられた。

今後も、児童たちに本県の農業の特徴を紹介するとともに、クビアカツヤカミキリについて知ってもらい、早期発見につなげる取組を行っていく。



クビアカツヤカミキリについて説明

Ⅱ 那賀振興局

1. 長田小学校で「ももの出前授業」を実施

7月8日、農業水産振興課では紀の川市立長田小学校の4年生13名を対象に、ももの出前授業を行った。この授業は、児童が県産果実の知識を深め、農業への理解促進と郷土愛、食に対する感謝の気持ちを醸成することを目的としている。

はじめに、果樹園芸課から児童代表にももの贈呈が行われたあと、南方普及指導員がももの歴史や、県内におけるももの生産状況や品種、また最近産地で問題となっているクビアカツヤカミキリについて説明を行った。

続いて、あら川の桃振興協議会 優良品種検討専門委員 山内 勸氏から、もも農家が行っている生産から出荷までの作業について説明があった。

その後、児童はもものスケッチに挑戦した。目の前にあるももをしっかりと観察して、ピンク、白、緑などの色鉛筆を使って、微妙な皮の色やももの毛を表現していた。

児童からは「もものに毛がたくさん生えていてびっくりした」、「もらったももを家に持って帰って食べるのが楽しみ」といった声が聞かれた。

当課では、今後も地域の特産物を使った食育を推進していく。



贈呈式



桃のお話

2. スマート農業実演会開催

7月28日、紀の川市粉河のキウイ園において、県主催の令和4年度わかやまスマート農業実演会を開催し、生産者24名、農業技術者等17名が参加した。

実演会では、ラジコン草刈機3社、ロボット草刈機1社、小型多機能ロボット（運搬）1社、一輪車電動化キット1社、アシストスーツ1社による機器の説明と実演が行われ、参加者が操作を体験した。高い草丈の雑草もしっかり刈れる草刈機に参加者は「高価ではあるが、夏季の除草作業を楽に行える」など実用性を感じていた。

農業水産振興課では、補助事業を活用しながら積極的にスマート農業機器を推進していく。



ラジコン草刈機の実演



一輪車電動化キットの実演

Ⅲ 伊都振興局

1. 高野山麓精進野菜出荷目揃え会及び栽培講習会の開催

伊都地域では昔から地元野菜を高野山へ奉納する雑事登（ぞうじのぼり）と呼ばれる伝統がある。そこで高野山麓農産物産地化協議会（農業者、農産物販売業者、橋本市、橋本市農業委員会、J A紀北かわかみ、伊都振興局、オブザーバー：かつらぎ町、九度山町、高野町）では、高野山麓精進野菜としての栽培基準を設け地元野菜のブランド化に取り組んでいる。

7月4日、橋本市民会館において高野山麓精進野菜の出荷目揃え会を開催し、生産者及び関係者併せて20名が参加した。生産者が栽培したなす、ピーマン、きゅうり等を持ち寄って出荷基準の統一を行った。

7月13日、橋本市役所において高野山麓精進野菜栽培講習会を開催し、新規栽培希望者5名が参加した。はじめに、橋本市農林振興課岡本課長補佐から高野山麓精進野菜の定義やコンセプトについて説明し、続いて、農業水産振興課久保普及指導員から栽培方法や農薬肥料の基準について説明を行った。

参加者からは「だいこんの岐根の原因と対策」、「ごまの栽培方法」等の質問があった。

当課では、今後も関係機関と連携して、栽培講習会等を通じて生産拡大を支援していく。



目揃え会（7月4日）



栽培講習会（7月13日）

2. 隅田地域農産物利用推進協議会総会及び講習会の開催

7月17日、隅田地区公民館において隅田地域農産物利用推進協議会（会長：乾 幸八氏）総会及び講習会を開催し、役員及び関係者が27名出席した。

隅田地域農産物利用促進協議会は、橋本市隅田地域の各地区の区長、橋本市、J A紀北かわかみ、伊都振興局で構成しており、橋本市隅田地域の特色に応じた農産物の活用を促進し、活力のある地域づくりに資することを目的に活動している。

総会では全ての議案が原案どおり可決、承認され、今年度も秋に野菜まつり等を開催することになった。

総会後の講習会では、当課の久保普及指導員がジャガイモの栽培方法とクビアカツヤカミキリについて説明を行った。参加者から「柑橘類に被害はないのか?」「スプレー式の殺虫剤は使用できるのか?」などの質問があった。

当課では、今後も関係機関と連携して協議会活動を支援していく。



総会



講習会

3. 食育活動として小学校へのももの出前授業を実施

7月8日、橋本市立三石小学校で4年生39名を対象に、ももの出前授業を行った。

この授業は、児童達が県産果実の知識を深め、農業の理解促進と郷土愛や食に対する感謝の気持ちを醸成することを目的として行っている。

最初に農業水産振興課の高垣技師が、本県のももの生産量や品種、栽培方法などについて説明し、続いて同課間佐古普及指導員がすもも・もも・うめ及びさくらなどの樹木を加害する特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」についての説明を行った。児童は標本や画像を見ながら、クビアカツヤカミキリへの知識を深めた。

その後、児童はもものヨーグルト和えを作り、試食を行った。児童からは、「ももの皮をむくのが難しい」や「甘くておいしい、もっと食べたい」などの声が多く聞かれた。

今後も当課では、地元の特産物や加工食材についての食育を推進していく。



クビアカツヤカミキリの標本を見る児童



ももの皮むきの様子

4. 令和4年度スマート農業実演会「伊都会場」を開催

7月29日、県主催によるスマート農業実演会をかつらぎ町の御所観光組合で開催し、農業者やJA、県関係者が計39名参加した。

伊都会場では、ラジコン草刈機（3社3機種）、小型多機能ロボット（運搬）、一輪車電動化キット、アシストスーツの計6社6機種について、各メーカー担当者から説明及び実演が行われた。その後、会場内で機種ごとに別れ、参加者による操作体験が行われた。

参加者からは、「思ったより操作が簡単」などの意見が多かったものの、導入に関しては「もう少し価格が安くなれば」との意見が聞かれた。また、「販売はJAでも行うのか」、「補助金の申請方法は」など様々な質問があり、各担当から説明を行った。

農業水産振興課では、今後とも農業者にスマート農業への認識を深めてもらうため、実演会などの機会を通じて情報提供を行っていく。



小型多機能ロボット（運搬）



ラジコン草刈機

IV 有田振興局

1. 温州みかんの摘果授業を開催

農業水産振興課では、有田市立保田小学校（3年生、37名）と有田市立宮原小学校（3年生、43名）で地元産業（農業）の理解と食育推進のために、温州みかんの出前授業を行った。

第1回目として、保田小学校は7月1日、宮原小学校は7月6日にそれぞれ摘果の授業を行い、城村普及指導員が温州みかんの生産量や栽培管理を説明した後、学校付近の園地で有田市農業士会指導のもと摘果体験を行った。

児童からは、「どの果実を摘果したらいいの？」「摘果しないとどうなるのか？」などといった質問が数多く飛びだした。次回は、11月に収穫体験を行う予定である。

今後も、当課では農業教育推進事業として学習の支援を行っていく。



温州みかんの栽培管理について説明
(保田小学校)



摘果体験（宮原小学校）

2. 宮原共選組合で温州みかんの栽培研修会を開催

農業水産振興課では、宮原共選組合員の兼業女性農業者や定年帰農者を対象として研修会を開催している。

7月3日、宮原共選選果場で摘果技術の研修会を開催し、7名の参加があった。

今回の目的は「摘果技術の習得」で、作業の時期、順番、程度等を資料に沿って説明した。

その後は、受講生の園地で摘果の実演と実習を行った。

受講生の研修意欲は高く、質問が数多く出された。また、「研修を受講することにより、作業効率向上につながった」な



室内での講習

どの感想もあった。

また、7月31日には「みかんのマルチ栽培」について研修を行った。今後は、8月に「高品質果実に向けた摘果技術」の研修を計画中である。



現地園での実習

3. 「温州みかんの果実調査」スタート

農業水産振興課では、温州みかん果実の生育状況を確認するため、7月から収穫終了まで15日おきに肥大、糖度、酸度を調査している。本年も極早生、早生、中晩生の品種別に管内の19園地を設定し、7月14日から調査を開始した。

これらのデータは、技術指導の参考とするとともに、公表することで農家自身の栽培管理の指標として役立ててもらっている。

なお、最新の調査結果は下記Webページ「有田みかんデータベース」にも掲載しており、過去の果実調査データの他、雨量情報、かん水情報なども見られるようにしているので、営農活動に活用いただきたい。

有田みかんデータベース

<http://www.mikan.gr.jp/>



果実肥大調査



果実品質調査

4. 令和4年度有田地方農業士協議会研修会開催

7月22日、有田川町のきびドームにおいて有田地方農業士協議会(会長:森田耕司氏)、ブランドありだ果樹産地協議会(会長:森田耕司氏)の共催による研修会が開催され、各市町から農業士、JAありだ無料職業紹介所利用者及び関係者併せて48名が参加した。

今回の研修会は、収穫期の雇用労力と被雇用者向け滞在施設の確保を目的として、講演会と有田、下津地域で滞在施設を運営している3名及びJAありだ職員で、現場の実情と他県での取組などについてパネルディスカッションを実施した。

講演会では、(株)アグリナジカン代表の山下丈太氏からこれまでの経歴と(株)アグリナジカンの事業内容、みなべ町での滞在施設確保への取組について具体的な説明があった。

意見交換会では、各々が取り組んでいる内容や課題等の紹介のあと、被雇用者とのコミュニケーションの取り方や効率的な技術指導などについて意見交換を行った。滞在施設を提供している運営者はそれを営利活動とは考えておらず、交流や他の事業と抱き合わせで総合的に考えている。

参加者からは、紹介された雇用者とのミスマッチをなくす工夫や滞在施設となる空き家の探し方など熱心な質疑応答が行われた。



来場者との意見の交換



5名のパネラーでの意見交換

V 日高振興局

1. 印南町農業士会が宝牧場で研修会を実施

7月22日、印南町農業士会（会長：片山真吾氏）11名は、特徴ある6次産業化の取組について学ぶため、滋賀県高島市の（有）宝牧場（代表取締役：田原哲也氏）において研修会を実施した。

まず、田原代表の案内で、搾乳パーラーを見学した。円形のターンテーブルを回転させながら、乳牛が順番に搾乳スペースに入っていく、一回転する間に搾乳が完了するというシステムで、乳牛にとっても快適であり、効率的かつ安全に搾乳できるとのことであった。

続いて、出産間近から出産後にかけての母牛と生後間もない子牛がいる牛舎を見学した。病気などのリスクもあるものの、責任を持って肉牛を低コストで生産できることから、繁殖から肥育、精肉販売までを自社で一貫して行っている。

さらに、肉牛の牛舎を見学した後、生乳の加工施設「しぼりたて工房」に移動し、田原代表から、宝牧場のはじまりから6次産業化への取組について話を聞いた。創立者である父の田原義裕氏の思い切った経営とそれに応える形で現代表が次々と新しい部門に取り組み、苦労や失敗を重ねながらも成功していく話は、たいへん興味深いもので、会員からも驚きの声や質問が相次いだ。

その後、宝牧場内にあるレストラン「宝亭」で近江牛ランチをいただいた。田原代表から貴重な体験談を聞いた後の食事は、より感慨深いものとなった。

今回の研修内容は、会員らの経営分野とは異なるものの、6次産業化や田原代表の考え方に触れ、充実したものとなった。



搾乳パーラー



肥育中の肉牛



田原代表の説明



焼肉レストラン「宝亭」

2. 第1回うめの県内有機農業実践者研修会を初めて開催

7月27日、農業水産振興課は、うめ栽培における新技術や病虫害防除の知識習得やうめの有機農場園地見学、農業者相互の交流によるうめの有機栽培技術の向上を目指し、果樹試験場うめ研究所、(有)紀州高田果園(代表取締役:高田智史氏)において、「第1回うめの県内有機農業実践者研修会」を開催した。県内の有機農業実践者に幅広く呼び掛け、かつらぎ町有機農業実践グループから14名、田辺印の会から12名、紀州高田果園のグループから12名、個人農家1名の計39名の有機農業実践者が参加した。

この研修会は、有機農業には栽培マニュアル等が少なく、有機農業技術向上のための勉強機会や他地域の実践者との交流機会が欲しいとの声があったことから開催に至った。研修会は講演会、うめ研究所見学、意見交換会、(有)紀州高田果園の現地見学の4部構成で実施した。

まず、うめ研究所の菱池主任研究員が「うめ栽培における病虫害防除」、綱木研究員が「カットバック・摘心処理技術などの新技術」の講演を行った。続いて、高田氏から自社の取り組みについての講演があった。高田氏は「有機農業実践者同士の情報共有や交流はとても大事だと考えています。ぜひ、今後もこのような集まりが開催されることを期待しています。」と語った。



講演会

うめ研究所の園地見学では、カットバック・摘心処理技術の説明や品種紹介などが行われた。



うめ研究所園地見学

参加者同士の意見交換会では、有機農業実践グループの代表からそれぞれの取り組みについて説明があり、質疑応答を行った。かつらぎ町有機農業実践グループでは月に1回2,3時間ほどの定例会を開きグループ員同士の情報共有を行っているという。田辺印の会は、生産品の販売の難しさなど他のグループとの共通の悩みを語った。(有)紀州高田果園グループからは土づくりの重要性について語られた。



(有)紀州高田果園園地見学

最後に、(有)紀州高田果園へ移動し、「南高梅発祥の地」の石碑と南高梅原木を見学した。

有機農業の取組を広げていくためには、実践者間の交流が必要であり、国や県などと連携した産地づくりが求められている。今後も引き続いて研修会を実施していきたい。

VI 西牟婁振興局

1. 西牟婁地方農業士会女性部会が梅の消費PR活動を実施

7月29日、西牟婁地方農業士会連絡協議会女性部会（部会長：田中直美氏）は、都市の子供たちにうめについて知ってもらい消費拡大に繋げようと、大阪府藤井寺市にある学校法人四天王寺小学校2年生の児童39名と教員2名を対象に、うめの座学と梅ジュースづくり体験を行った。

座学では竹内明子副部会長が「梅の一年」について、パワーポイントでうめの花や生長する様子、栽培方法、梅干しができるまでの作業等を丁寧に説明した後、当課の山下普及指導員から梅ポリフェノールの新型コロナウイルスへの阻害効果に関する研究報告について、イラスト入りの資料等を使って分かりやすく説明した。

次に、田中部会長が梅ジュースの作り方を実演し、児童が冷凍梅と氷砂糖を使ってジュースづくりを体験した。

児童からは、「うめは、いつ収穫するのか」、「梅ジュースづくりは、思ったより簡単だった」、「うめのことがよく分かった」等の質問や感想があった。

さらに、家庭や学校の給食に使ってもらえるように、当部会で作成した梅料理レシピとJA紀南の梅干しも配布した。

当部会では、引き続き都市の子供たちにうめの座学や加工体験を通じてうめの魅力を伝えるとともに、保護者へもPRを行い、うめの消費拡大活動を積極的に行っていく。



うめの座学



梅ジュースづくり（実演）

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお莓”産地の体力強化】

～みくまの産地協議会が第1回UIターン就農相談フェアに出展～

7月17日、第1回UIターン就農相談フェアが和歌山県JAビルで開催され、出展したみくまの産地協議会のブースに3組5名が訪れた。

このうち大阪府在住の相談者は、那智勝浦町に移住し施設野菜等の栽培を希望しており、その際の当協議会が提供する支援・助成やJA・県のサポート体制等について問い合わせがあった。

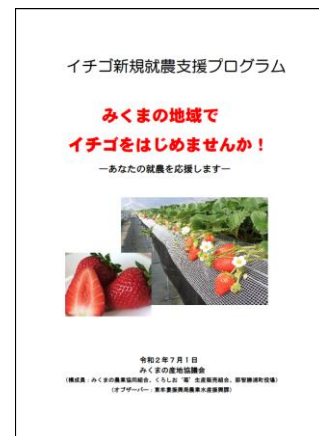
農業水産振興課の橋本・坂井普及指導員は、みくまの産地協議会での現況の受入体制を紹介するとともに、支援・助成、準備資金には農業次世代人材投資事業（準備資金・経営開始資金）を、イチゴ栽培技術の修得にはくろしお莓生産販売組合の研修内容を説明した。併せてその他生産施設に対する支援事業等も紹介した。加えて、JAみくまの営農経済センター亀井次長からは、農業の基礎技術や管内農作物の栽培技術習得支援としてJAトレーニングファームの研修内容について説明がなされた。

なお、昨年度の第1回UIターン就農相談フェアの相談者のうち1名（大阪市からのIターン者）は、産地面談会を経て、本年9月から当協議会の研修先のJAトレーニングファームと地元のイチゴ栽培農家にて研修予定である。

今後も当課は、みくまの産地協議会と連携し、JAトレーニングファームを拠点とした新規就農希望者の受け入れを支援していく。



みくまの産地協議会での就農相談



イチゴ新規就農支援プログラム



昨年度UIターン就農相談フェア
相談者の新規就農を支援



みくまの産地提案書
(就農地：新宮市・那智勝浦町)

2. アブラナ科野菜の根こぶ病簡易生物検定研修を開催

～管内7農家の検定も併せて実施～

農業水産振興課は、たかな、ブロッコリー等のアブラナ科野菜に被害を及ぼす根こぶ病の発生程度を調べ、次作の対策を立てるために、6月21日と7月22日に新規就農者及びJAみくまのトレーニングファーム研修候補者、3名を対象に、根こぶ病簡易生物検定研修を開催した。管内でアブラナ科野菜を栽培している7農家の土壌検定を行った。

6月21日は、JAみくまのトレーニングファームにて、当課坂井普及指導員が研修生に根こぶ病の特徴や簡易生物検定の手法、防除方法などについて説明を行った。その後、7農家から採取した土壌の調製、セルトレイへの充填を行い、検定体として罹病性はくさいを播種した。

7月22日は、那智勝浦町中里で根こぶ病の検定を行った。研修生は、検定土で1カ月育苗したはくさいの苗をセル単位で抜き取り、根の付着土を洗浄し、根に形成されたこぶの状態を発病指数に基づき菌密度を推定した。

なお、後日、坂井普及指導員は、根こぶ病菌密度に応じ、排水対策としての高畝栽培や酸度矯正としての石灰資材施用、ネビジン・フロンサイド等の薬剤施用など防除対策を調査対象農家に巡回等で指導した。

当課では引き続き、アブラナ科野菜生産者を対象に根こぶ病防除対策の指導及び注意喚起を行う。



6/21 検定方法の説明・播種



7/22 根こぶ病の判定

3. 地場産青果物対策協議会が先進地視察研修を実施

地場産青果物対策協議会（会長：小田三郎氏）は、7月28日に栽培技術向上と会員相互の親睦を深めるため、視察研修を実施し、京都府久世郡久御山町を視察した。当日は生産者4名（内新規就農者1名）の他、市場関係者、JAみくまの及び農業水産振興課の計9名が参加した。

現地視察では、「京野菜友の会」会員のなす2ほ場を見学した。現地では、高温期の栽培方法や防除方法について活発な意見交換や質疑応答がかわされ、先進地の栽培技

術について知ることができた。また、新たな品目等の取り組みについても情報を共有した。

今回、参加した新規就農者からは、「勉強になった」、「意欲がでた」などの感想や「新たな誘引方法も参考になったので取り組んでいきたい」との声もあり、当課では、今後も活動を支援していく。



新たな品目の取組について話し合い



なすほ場での意見交換

Ⅷ 農林大学校

1. 1年生の農業体験研修

1年生（14名）は、農業に対する理解と自信を深めることを目的に、7月13日から20日のうち5日間、農家宅において農作業を体験した。

研修は本校を卒業した県内の先輩農家が受け入れ先となり、除草や摘果、誘引などの管理作業に加え、農機の操作などの指導を受けた。また、作業のコツやペース配分を考えること、農業者間の交流の必要性など、先輩農家の取り組みを学ぶことができ、有意義な農業体験ができたとの感想であった。

5日間という短い期間ではあったが、今回の研修を通じて、農業の大変さだけでなく今後に活かせる技術や知識等を学ぶことができ、充実した研修となった。



先輩農家と学生



先輩農家から指導を受ける学生

IX 就農支援センター

1. 令和4年度第1回UIターン就農相談フェアを開催

7月17日、和歌山県JAビル（和歌山市）において第1回UIターン就農相談フェアを完全予約制で開催した。

今回、県相談ブースをはじめJA関係、各市町、わかやま移住定住支援センターなどを含む、12団体14個の相談ブースを設け、県内外から多数の相談者が参加した（県内20名、県外9名）。県内で就農を考えている相談者から、「就農についてアドバイスが欲しい」、「研修のはじめ方について」、「補助金・農地について」などの質問が寄せられ、それぞれの質問に対応した。

また、相談フェアと同時に新規就農セミナーを開催した。過去に就農支援センターの研修を修了し、現在県内で野菜と花きを栽培されている方を講師に招き、“就農までの経緯”、“就農して良かったこと・苦勞したこと”などについて話しを聞いた。相談会全体を通じて、「これからの就農に向けて良い話が聞けた」などの声が聞かれた。



相談フェア会場の様子



新規就農セミナー

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489